

授業科目の概要			
(看護学研究科 看護学専攻(博士前期課程) CNS コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 共通必修科目	臨床薬理学	(概要) 看護の理論形成が専門職看護の基盤であることを理解し、既存の看護哲学、看護概念モデル(適応・セルフケア)、や諸理論(コンフォート、ケアリング、ヘルスプロモーション等)を理解し、これらの理論が自らの看護現象を説明でき、検証レベルや看護実践の貢献の観点からクリティックし学修する。	
	がん病態治療学特論	(概要) がん病態治療学を学習することによって、人間の身体に生起する病変の基本を知り、その成り立ちについて細胞・分子レベルで理解を深める。臨床における実際のがん診断・治療について学習し、がん看護の高度な臨床判断と看護実践につなげるために必要な、病態治療学的知識を習得する。	
専門科目	臨床看護学特論 I	(概要) がん看護学領域では、がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、全人的ケアおよびケアリング文化に根ざした看護実践の土台となる理論や概念を探求する。看護実践の主要となる理論の活用について理解を深める。	
	臨床看護学特論 II	(概要) がんの診断と最新の治療方法、がんの疫学、予防、早期発見について学び、がん看護実践で応用できる専門的アセスメント能力の基盤を養う。また、がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、がん患者の複雑な健康問題に対して、包括的な支援を提供するための看護援助方法について探求する。エビデンスと実践を関連付けて理解を深める。	
	緩和ケア特論 I	(概要) がん患者・家族が抱える全人的苦痛を捉えるための包括的なアセスメントの方略や看護援助方法について理解する。特に、がん疼痛をはじめとする疾患や治療に伴う症状の概念、疫学、症候、病態生理を踏まえ、症状アセスメント、臨床判断、看護援助の方略について最新のエビデンスを探求し、症状緩和における高度な臨床判断とケアとケアを統合した看護援助を提供するための基礎的知識を習得する。	

専門科目	緩和ケア特論 II	<p>(概要)</p> <p>緩和ケア領域において、がん看護専門看護師としての役割機能を発揮するための知識を身につける。緩和ケアの概念をはじめとして、緩和ケアに関わる政策、さまざまな実践の場（在宅、一般病棟、ホスピス・緩和ケア病棟、緩和ケアチーム）における特徴、リソースの活用方法および地域連携について理解する。また、がん診断時から終末期にかけての患者・家族が抱える全人的苦痛（身体的、精神的、心理・社会的、スピリチュアル的）に対するケアおよびグリーフケアについて最新のエビデンスや理論を理解する。</p>	
	緩和ケア特別演習 I	<p>(概要)</p> <p>緩和ケア特論 I の学修を踏まえ、事例検討や技術演習を通してがん患者が抱えるがんの病態と治療に伴う症状を主観的・客観的手法を用いて包括的にアセスメントし、臨床判断能力を身につける。さらに、全人的苦痛を緩和するための最新のエビデンスや知見に基づきキュアとケアを統合した看護援助について考究する。また、フィールドワークを通して、症状緩和の方略を検討するうえで、緩和ケアチームの役割機能や多職種連携の実際を学習し、緩和ケア領域におけるがん看護専門看護師としての役割を明確化する。</p>	
	緩和ケア特別演習 II	<p>(概要)</p> <p>緩和ケア特論 II の学習を踏まえ、複雑な問題を抱えるがん患者・家族の事例やロールプレイ演習を通して、全人的ケアの視点からみた包括的看護援助を提供するための相談・心理的支援、調整、倫理調整に必要な技術を身につける。さらに、フィールドワークを通して、がん患者の意思決定支援、患者・家族の相談・心理的支援、他職種との連携、倫理的問題へのアプローチ、緩和ケアチームにおける横断的なアプローチや在宅療養支援、地域・文化に根差した緩和ケアの地域連携の在り方についても探求し、地域包括支援の充実を促進するうえでがん看護専門看護師としての役割機能を明確化する。</p>	
	がん看護学実習 I	<p>(概要)</p> <p>がん看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、倫理調整、教育・研究）の実際を学ぶ。</p> <p>がん看護専門看護師の実践の見学、同行を通し、がん看護専門看護師の役割理解を深め、がん看護専門看護師としての役割機能を発揮するための能力開発と自己の課題を明確化する。</p>	
	がん看護学実習 II	<p>(概要)</p> <p>疾患および治療に伴う苦痛を全人的にアセスメントし、症状緩和およびセルフケアマネジメントの方略に関する知識や技術を学修する。臨床腫瘍医や緩和ケア医の指導の下、がん診療およびに関する臨床判断能力を修得する。また、複雑な問題を抱えるがん患者・家族を受け持ち、臨床指導者および大学院指導教員の指導の下、理論やエビデンスに基づく専門的な知識や技術を用いて、ケアとキュアを統合させた質の高い看護実践を探求する。</p>	

専門科目	がん看護学実習Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>がんの治療期から終末期における、患者・家族が抱える複雑な問題を解決する（意思決定支援を含む）ための知識や技術を学修する。特にがん患者・家族の苦痛を全人的にアセスメントし、患者・家族、医療従事者間で生じる倫理的な葛藤などの複雑な問題に対し、患者・家族の希望により沿った治療や療養生活の選択が行えるよう、症状緩和およびセルフケアマネジメントの方略および必要なリソースの活用について、患者・家族および臨床スタッフと検討し、臨床スタッフや多職種との連携を踏まえた看護実践能力を修得する。また、受け持った患者・家族への看護実践を通して、臨床スタッフに看護実践の質向上に向けた教育企画を実施し、効果的な教育について探究する。</p>	
	がん看護学実習Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>緩和ケア病棟および在宅で療養するがん患者・家族の問題解決に関する知識や技術を学修する。患者・家族の希望により沿った療養生活を整えるために、全人的苦痛を捉え、地域・社会資源の活用を検討し、臨床スタッフや多職種との連携を図り、シームレスな看護を実践する能力を修得する。特に、看護実践を展開するうえで、症状緩和およびセルフケアマネジメントの方略について、患者・家族および臨床スタッフと検討し、臨床指導者および大学院指導教員の指導のもと実践し、緩和ケア病棟・在宅療養環境の特性を踏まえた看護実践を学修する。また、受け持った患者・家族への看護実践を通して、臨床スタッフに看護実践の質向上に向けた教育企画を実施し、効果的な教育について探究する。</p>	
演習・研究科目	課題研究Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>専門領域（がん看護）の看護実践上の課題について、文献クリティークを通して、研究手法、計画作成および論文の作成過程を学ぶ。先行研究を読み込み、研究テーマを明確化し、倫理的配慮に基づいた専門性の向上につながる研究計画書の作成を行う。</p>	
	課題研究Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>課題研究Ⅰで作成した研究計画書を基に担当教員の指導のもと、研究を実施し、修士論文（課題研究）を作成する。研究倫理審査の承認が得られた後、研究計画に沿って、協力依頼、データ収集、分析を行う。その後、研究の結果について先行研究や理論を用いて批判的に考察し、解釈し、研究の限界を理解したうえで、論旨が一貫した論文を作成する。実施した研究を公開で発表し、研究成果を還元する。</p>	